

義のわざは誠実な道を保ち、悪のわざは道を誤らせて罪に導く。(6)

神のかたちに造られ、正しい神に愛されている人間には、もともと正義感が備えられている筈ですが、現代では、これまで社会に普通にあつた正義感が薄れ、不正と混乱が広がっています。「事の真相」を明らかにし、人々に真実を伝えるために、正義感をもって励まなければならない仕事の関係者なども、今はその使命を投げ捨てたのかと思われる面が多くなりました。偽りであろうとでたらめであろうと、「多勢に受ければいい」「自分に有利だったらいい」といった風潮が強くなつてきています。曲がったことが公然とまかり通り、正邪が逆転しているような時代に、「義の道」に歩むのは容易ではありません。

しかし、神はあくまでも「正義の神」です。義

をもって事を行われ、正しい裁きをなさる方です。聖書のあちこちに、箴言の多くの箇所にも、「義なる神」について、また人が正義に生きることの必要と価値について書かれています。

正しく生きようとして傷を受けたり、マイナスを被るようなことがあつたとしても、神は、心の直ぐな者、正しく歩む者を愛してください、必ず報いてくださいます。悪しき者は一時的には栄えても、そのうち倒れ、必ず自滅していきます。悪しき者に良い結末はないのが、正義の神の前での宇宙の原則です。

祈り 主よ、正しい神よ。みことばの光の中を、あなたにすがりつつ、心して歩む者にしてください。

TN

心はその人自身の辛さを知っている。その喜びにほかの者はあずかれない。(10)

「ジョハリの窓」という心理学説があります。

それは、人の心には、「自分も知り、他の人も知っている」部分、「自分は知っているが、他の人は知らない」部分、「自分は知らないが、他の人が知っている」部分、「自分も他の人も知らない」部分があると云います。人の苦しみには、その人にしか分からないものが多く、私たちも、「私の苦しみは誰も分かってくれない」と感じ、孤独に陥ることがあります。10節の言葉は、「その人でなければ、その人の苦しみは分からないものだ」という意味なのでしょう。

しかし、「ジョハリの窓」が言うように、「自分にしか分からない」と思っている、その人が気付いていない部分があります。熟練した心理療法士は、クライエントに、その人が知っている苦

しみをすべて語らせてから、「自分は知らないが、他の人が知っている部分」、つまり、「客観的な観察」へと導きます。

自分を客観的に見ることできたら、多くの問題は解決するでしょうが、「自分も他の人も知らない部分」は依然として残ります。そこに光が与えられないかぎり、心の問題はぶりかえします。

しかし、解決があります。神は「自分も他の人も知らない部分」を知っておられるからです(詩篇139篇)。また、この神によつてたましいを照らされた者たちは、「喜んでいる者たちとともに喜び、泣いている者たちとともに泣く」交わりを持つことができるのです(ローマ12・15)。この箴言の言葉は、キリストの救いによつて、新しく解釈することができるようになったのです。

祈り 私を知る以上に私たちの苦しみを知っておられる主よ。あなたに癒やしを求めます。

適切な返事をすることは、その人の喜び。時宜に
 かなったことばは、なんと麗しいことか。(23)

適切な言葉を適切な時に語るのは、非常に難しい事です。正しいことや人の励ましになるような言葉を語ったとしても、そのタイミングが狂えば、まったく意味がなくなるからです。

聖書は、適切で時宜にかなった言葉を話すための一番良い方法を教えています。それは、聖霊にお任せすることです。

聖書によれば、聖霊は、たとえば私たちが会堂や役人や権力者などのところに連れて来られても、言うべきことを教えてくださる、と約束しています(ルカ12・11と12)。また、祈る時も、どのように祈ったらよいかわからなくても、聖霊の言いようもない深いうめきによって、祈るべきことを祈らせてくださる、とも言われています(ローマ

8・26)。それゆえ、私たちにとって、大切な事は、一日の始めや大事な話の前に「聖霊様、助けてください」と祈ることなのです。

アメリカ・メリーランド大学の研究によると、男性は一日平均約七千語の単語を、女性は一日平均約二万語の単語を話すとの事です。また、女性が一日に話す単語が、六千語を下回るとストレスを感じる、という結果も出ています。このように、数ある単語の中で、適切で時宜にかなう単語を発することは大変そうに思えます。しかし、聖霊の助けを求めて話すなら、必ず適切で時宜になかった言葉を発する事ができません。もしかしたら、無駄話も少なくなるかもしれません。聖霊によって話すことを祈り求めたいと思います。

祈り 聖霊様。適切で時宜にかなった言葉を発することができるよう、助けてください。

MO

「試し読み」はここまでです。

お気に入りでしたら

ご注文ください。



Penguin Club

www.penguinclub.net